Magic xpi UNIX インストール ガイド



The information in this manual/document is subject to change without prior notice and does not represent a commitment on the part of Magic Software Enterprises Ltd.

Magic Software Enterprises Ltd. makes no representations or warranties with respect to the contents hereof and specifically disclaims any implied warranties of merchantability or fitness for any particular purpose.

The software described in this document is furnished under a license agreement. The software may be used or copied only in accordance with the terms and conditions of the license agreement. It is against the law to copy the software on any medium except as specifically allowed in the license agreement.

No part of this manual and/or databases may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electronic or mechanical, including photocopying, recording or information recording and retrieval systems, for any purpose other than the purchaser's personal use, without the prior express written permission of Magic Software Enterprises Ltd.

All references made to third-party trademarks are for informational purposes only regarding compatibility with the products of Magic Software Enterprises Ltd.

Unless otherwise noted, all names of companies, products, street addresses, and persons contained herein are part of a completely fictitious scenario or scenarios and are designed solely to document the use of Magic xpi.

Magic[™] is a trademark of Magic Software Enterprises Ltd.

Btrieve® and Pervasive.SQL® are registered trademarks of Pervasive Software Inc.

IBM®, Topview[™], System i5®/System i®/IBM i®, pSeries®, xSeries®, RISC System/6000®, DB2®, WebSphere®, Domino®, and Lotus Notes® are trademarks or registered trademarks of IBM Corporation.

Microsoft®, FrontPage®, Windows[™], WindowsNT[™], ActiveX[™], Exchange[™], Dynamics® AX, Dynamics® CRM, SharePoint®, Excel®, and Word® are trademarks or registered trademarks of Microsoft Corporation.

Oracle®, JD Edwards EnterpriseOne®, JD Edwards World®, and OC4J® are registered trademarks of the Oracle Corporation and/or its affiliates.

Google Calendar[™] and Google Drive[™] are trademarks of Google Inc.

Salesforce® is a registered trademark of salesforce.com Inc.

SAP® Business One and SAP® R/3® are registered trademarks of SAP AG in Germany and in several other countries.

SugarCRM is a trademark of SugarCRM in the United States, the European Union and other countries.

Linux® is a registered trademark of Linus Torvalds.

UNIX® is a registered trademark of UNIX System Laboratories.

GLOBEtrotter® and FLEXIm® are registered trademarks of Macrovision Corporation.

Solaris[™] and Sun ONE[™] are trademarks of Sun Microsystems Inc.

HP-UX® is a registered trademark of the Hewlett-Packard Company.

Red Hat® is a registered trademark of Red Hat Inc.

WebLogic® is a registered trademark of BEA Systems.

 $\label{eq:interstage} Interstage @ is a registered trademark of the Fujitsu Software Corporation.$

JBoss[™] is a trademark of JBoss Inc.

Clip art images copyright by Presentation Task Force®, a registered trademark of New Vision Technologies Inc. This product uses the FreeImage open source image library. See http://freeimage.sourceforge.net for details. This product uses icons created by Axialis IconWorkShop™ (http://www.axialis.com/free/icons)

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (http://www.apache.org/).



This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (http://www.cmu.edu/ computing/). Copyright © 1989, 1991, 1992, 2001 Carnegie Mellon University. All rights reserved.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/). This product includes software that is Copyright © 1998, 1999, 2000 of the Thai Open Source Software Center Ltd. and Clark Cooper.

This product includes software that is Copyright © 2001-2002 of Networks Associates Technology, Inc All rights reserved.

This product includes software that is Copyright © 2001-2002 of Cambridge Broadband Ltd. All rights reserved.

This product includes software that is Copyright © 1999-2001 of The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA. All Rights Reserved.

All other product names are trademarks or registered trademarks of their respective holders.

Magic xpi UNIX Installation Guide - Magic xpi 4.14

Copyright \odot 2023-24 by Magic Software Enterprises Ltd. All rights reserved.



目次

Magic xpi のインストール5
サイレントインストール7
データベースゲートウェイ7
Oracle と DB28
MySQLとODBC9
Windows プロジェクトを UNIX 上に設定
Web リクエスタの構成13
インストールと構成の確認15
トラブルシューティング16



この章では UNIX サーバで Magic xpi を使用する方法について説明します。

通常サーバ製品は Windows の」 リリース後にリリースされます。

Magic xpi のインストール

Magic xpi をインストールする前に、新規セットアップ用に新しいユーザを作成 する必要があります。既存のユーザを使用すると、不正な動作が発生する可能性 があります。以下の手順を実行し、システムに Magic xpi Server をインストー ルします。

管理者は Magic xpi のユーザーを定義する必要があります。ここでは、 たとえば、ユーザ名を magicxpidev とします。

1. Magic xpi はユーザのホームディレクトリにインストールする必要があります。

2. ユーザ magicxpidev で Magic xpi UNIX ユーザとしてログインします。

3. software といいう名前でディレクトリを作成し、インストールファイルを

このフォルダにコピーします。例:magicxpi_<version>.<os>.tar.gz

4. gunzip コマンドでインストールファイルを解凍します。

5. 次のコマンドを実行します:

tar xvf software/magicxpi_<version>.<os>.tar

6. mgxpiinstall コマンドを実行します。

以下の情報は、mgxpiinstall スクリプトのユーザーインターフェイスについ て説明しています。斜体テキストは、スクリプトによって提供される情報です。 太字のテキストは、ユーザが入力する必要がある情報です。



Magic xpi インストール手順

mgxpiinstall は、Magic xpi Server for Unix のインストールを支援する対話 型シェル スクリプトです。いつでも CTRL+C を押すと、このスクリプトを終 了して、もう一度開始できます。<CR> を入力するように求められたら、 ENTER を押します。

<CR> と入力して続行します...

インストール ログ ファイルは、/<Magic xpi ユーザのホーム ディレクトリ >/logs/inst_log です。

Magic xpi Server のインストールでは、IMM、JDK、Tomcat 構成のデフォルト値を含む一連の入力が提供されます。 デフォルト値をそのまま使用することも、必要に応じて変更することもできます。すべての値を入力したら、Y を入力してインストールを続行します。

指定する必要がある値のリストは次のとおりです:

1. Java8 JDK 64 ビット インストール ディレクトリを入力します (デフォ ルト: /home/xpi414/OpenJDK/jdk8u372-b07):

2. Tomcat インストール ディレクトリ (CATALINA_HOME) を入力します (デフォルト: /home/xpi414/apache-tomcat-9.0.76):

- 3. IMM Host を入力します (デフォルト: localhost): xpiqa.net
- 4. IMM Port を入力します (デフォルト: 6379):
- 5. LogDB Host を入力します (デフォルト: localhost): xpiqa.net
- 6. LogDB Port を入力します (デフォルト: 27017):
- 7. LogDB Database 名を入力します (デフォルト: MGXPI414):

Would you like to proceed using the above information (Y or N)? Y (上記の情報を使用して続行しますか (Y または N)?) Y



サイレントインストール

UNIX のインストール プロセスでは、サイレント インストールもサポートされて おり、ユーザの介入なしに Magic xpi をインストールできます。これを行うには、 インストールのパラメータを configfile に追加し、そのファイルをインストール のルート ディレクトリに配置する必要があります。 サイレント インストール ファイルの準備と必要な情報の更新が完了したら、次の

コマンドを使用してインストールを開始できます:

./mgxpiinstall /silent

Magic xpi をインストールし、関連する設定をすべて調整したら、設定を 有効にするために UNIX システムからログアウトして再度ログインしてく ださい。

データベースゲートウェイ

\$MAGIC_XPI_HOME/etc/mgenv ファイルには、サーバ ゲートウェイ情報が リストされています。行の先頭に番号記号 (#) があるゲートウェイはアクティブ 化されていません。Magic xpi をインストールしたときに選択したデータベースの ゲートウェイは常にアクティブです。データベース ゲートウェイをアクティブ化 するには、行から # を削除します。



Oracle と DB2

Oracle ゲートウェイを使用する場合は、次の点を確認してください。:

・**\$ORACLE_HOME** および **\$ORACLE_SID** パラメータが

\$MAGIC_XPI_HOME/etc/mgenv ファイルで定義されていること。このファ イルはインストール プロセス中に更新されます。

・**\$LD_LIBRARY_PATH** 環境変数に **\$ORACLE_HOME/lib** ディレクトリが含 まれていること。

Oracle および DB2 データベースの場合は、接続文字列を入力してからホーム ディレクトリを入力する必要があります。

Oracle12、Oracle18、Oracle19 を使用するには、**mgenv** ファイルをデフォルト 値である *MGORACLE11* からそれぞれ *MGORACLE12、MGORACLE18、 MGORACLE19* に変更し、手動で更新する必要があります。

- ・mgenv ファイルを更新した後、ユーザーはターミナル セッションに
 再度ログインする必要があります。
 - ・mgenv ファイルの変更を反映するには、クラスタ環境を再度デプロイ する必要があります。



MySQL と ODBC

- 1. MyODBC コネクタをインストールします。
- MyODBC コネクタの共有ライブラリのパスを LD_LIBRARY_PATH に追加 します。
- 3. MySQL をアクティブ化すると、通信ソケット

/var/lib/mysql/mysql.sock が使用され、MyODBC コネクタは /tmp でこれ を検出しようとします。したがって、そこにリンクを作成します。

コンピュータに ODBC がインストールされていない場合、MySQL データベースを使用するには以下をインストールする必要があります。:

- unixODBC-2.x.xx <u>http://www.unixodbc.org/</u>からダウンロードする
 ことができます。
- MyODBC ドライバ <u>http://dev.mysql.com</u> からダウンロードすること
 ができます。

MySQL データベースの場合は、unixODBC インストール ディレクトリを入力す る必要があります。

ODBC を使用するには、**\$MAGIC_XPI_HOME** ディレクトリの下にある **.odbc.ini** ファイルを編集する必要があります。内容は以下のようになります:

\$MAGIC_XPI_HOME/.odbc.ini [MAGICXPI] Description = Magic xpi Database Driver = /home/magicxpi/lib/myodbc/libmyodbc5.so libmyodbc5.so (は ODBC ドライバ)の場所



Database = MAGICXPI

MAGICXPI (は内部データベース)の場所

Server = Host 名/IP アドレス

Host 名/IP アドレス(データベースサーバのもの)を指定



Windows プロジェクトを UNIX 上に設定

プロジェクトの開発は常に Magic xpi の Windows バージョンで行われます。開 発が完了したら、プロジェクトを UNIX システムに移動します。 Windows プロジェクトを UNIX 上に設定する手順は次のとおりです。:

- Windows のプロジェクトフォルダから、Salesforce、SharePoint、 Exchange などで作成したプロジェクトで使用する mappergenerate フ ォルダ、Resources.xml、Services.xml、.ipp ファイル、コネクタフォ ルダを UNIX のプロジェクトフォルダにコピーします。
- 2. mgxpisetup コマンドを実行します。
- 3. Enter キーを押下します。
- プロジェクトのディレクトリ名を入力します。
 このスクリプトは、指定されたプロジェクトの IFS.INI ファイルと start.xml ファイルをプロジェクトのディレクトリに配置します。また、 インストールの sbin ディレクトリに mgxpistart.[projectname] お よび mgxpistop.[projectname] スクリプトを作成して保存します。
- プロジェクトを開始するには、mgxipistart.projectname スクリプト を実行します。

Linux プラットフォームの mgxpisetup ユーティリティは、プロジ ェクトごとにデフォルトの IFS.INI ファイルをすべて大文字で作成し ます。一方、Windows プラットフォームでは、新しいプロジェクトを 作成するときに ifs.ini ファイルは小文字で作成されます。そのため、 ユーザーがプロジェクト ファイルを Windows から Linux にコピーす る場合、ifs.ini ファイルで構成されているプロジェクト関連の追加の値 をすべて、Linux で作成された IFS.INI ファイルに追加する必要があ



ります。Linux は大文字と小文字を区別するプラットフォームであるため、これが必要です。 そうしないと、プロジェクトの実行時に変更が反映されません。



Web リクエスタの構成

Magic xpi には、デフォルトの tomcat が同梱されています。デフォルトの場所は /home/xpi414/apache-tomcat-9.0.76 です。

apache-tomcat-9.0.76/bin/setenv.sh に次の 2 つのパラメータがあるかどうか を確認してください。ない場合は、追加する必要があります:

- "CATALINA_OPTS= Dcom.magicsoftware.requester.conf=/home/xpi414/etc/mgreq.ini Dcom.magicsoftware.ibolt.home=/home/xpi414"
- apache-tomcat-9.0.76/webapps/magicxpi4.war で .war が使用可能であることを確認します。

デフォルト以外の Tomcat を使用する場合は、以下の最初の 2 つの手順に従って ください。デフォルトの Tomcat の場合は、これらの手順を実行する必要はあり ません。:

- 1. apache-tomcat-9.x.xx または以降のバージョンをダウンロードし、ホ ーム ディレクトリに配置します (新しい Web リクエスターとして)。
- apache-tomcat-9.x.xx/bin/startup.shにおいて、スクリプトの最後に次の行を追加します。:

CATALINA_OPTS="-

Dcom.magicsoftware.requester.conf=/u3/xpi4/mgreq.ini"

(インストールディレクトリに変更します)

export CATALINA_OPTS

以前:



exec "\$PRGDIR"/"\$EXECUTABLE" start "\$@"

 Java-Based Installation Directions.pdf ファイルの指示に従って、 Java リクエスタをインストールします。このファイルは、次の場所にあ ります。:

/home/xpi414/apache-tomcat-9.0.76/webapps/magicxpi4.war

 4. Java HTTP Requester WAR ファイル (/home/xpi414/apachetomcat-9.0.76/webapps/magicxpi4.war にあります) を
 CATALINA_HOME/webapps フォルダーにコピーします。



インストールと構成の確認

構成が適切に行われ、必要なすべてのライブラリに Magic xpi からアクセスできる ことを確認するには、次の Idd コマンドを使用します:

cd \$MAGIC_XPI_HOME/bin

Idd mgxpiserver

データベース ゲートウェイでも ldd を使用する必要があります。

例: Idd mgoracle11

ライセンスの登録

Magic xpiの正式ライセンスがあることを確認してください。正式ライセンスを受け取ったら、**\$MAGIC_HOME/etc/**ディレクトにライセンスファイルをコピーします。



トラブルシューティング

Q1. IMM のデプロイで SSL を使用する場合、Redhat、Suse、Ubuntu Linux デ ィストリビューションで IMM_Controller_Log.sh または IMM_Tunnel_Log.sh シェル スクリプトを実行するために証明書ファイルを追加するにはどうすればよい でしょうか?

A: これらのシェル スクリプトを正常に実行するには、まず証明書ファイルを追加 する必要があります。これらのファイルを追加する方法は 2 つあります。ここでは、 IMM_Controller_Log.sh ファイルを例に挙げます。 IMM_Tunnel_Log.sh も同様 の手順で追加します。

注: これらの手順は Redhat Linux で機能します。Ubuntu および Suse の場合は、 場所を適宜変更する必要があります。

これらの手順を実行する前に、ファイル内のフラグ IMM_SECURED_CONNECTION の値を「N」(デフォルト値) から「Y」に変更す る必要があります。

A. スクリプト ファイルに変更を加える

このアプローチでは、次の手順を実行します。

1. 以下のリンクをクリックして証明書をダウンロードします:

https://certs.godaddy.com/repository/gdig2.crt.pem

- ダウンロードした証明書ファイルを/home/<Magic xpi
 nstallation>/InMemoryMiddleware/config/ フォルダに配置します。
- エディターで IMM_Controller_Log.sh スクリプト ファイルを開き、
 このスクリプトの末尾に次の行を追加します。

--cacert /home/xpi414/InMemoryMiddleware/config/gdig2.crt.pem



例えば IMM_Controller_Log.sh の場合は次のようになります。:

curl --cacert

/home/xpi414/InMemoryMiddleware/config/gdig2.crt.pem -X GET "\$URL/UpdateControllerLogLevel?newLogLevel=\$LOG_LEVEL"

 Telnet などで接続し、../IMM_Controller_Log.sh を実行するとログ レベルが設定されます。

B. ca-bundle.crt に証明書ファイル gdig2.crt.pem の詳細を追加する

このアプローチでは、次の手順を実行します。

- 以下のリンクをクリックして証明書をダウンロードします: https://certs.godaddy.com/repository/gdig2.crt.pem
- gdig2.crt.pem の内容をコピーし、コピーした内容を /etc/pki/tls/certs/ にある ca-bundle.crt ファイルの末尾に追加し ます。
- Telnet などで接続し、../IMM_Controller_Log.sh を実行するとログ レベルが設定されます。

Q2. IMM_Controller_Log.sh または IMM_Tunnel_Log.sh シェル スクリプトの 実行時に発生するエラー「: Curl(6): could not resolve host or Name service not known(: Curl(6): ホストを解決できなかったか、名前サービスが不明です)を 修正するにはどうすればよいですか?

A: このエラーを修正するには、次の点に注意する必要があります。:

- 1. サーバ側とクライアント側のドメイン証明書が一致していることを確認し ます。
- 2. 両方の証明書を検証します。



3. 証明書発行機関から提供された正しい証明書を使用していることを確認し ます。

ここで、IMM_Controller_Log.sh ファイルと IMM_Tunnel_Log.sh ファイル で、フラグ IMM_SECURED_CONNECTION の値を「N」(デフォルト値) から 「Y」に変更する必要もあります。これらの変更が完了したら、ファイルを実行す ることができます。

